

①石に囁き 良縁願う ささやき神社 ②江戸からの 歴史をつなく 中山道

長和カルタ

町内で実習 東農大生制作

耕作放棄地の活用などをテーマに、長和町で毎月実習している東京農業大（東京）の国際食料情報学部（国際食料情報学部）の学生が、町内の特産品や自然、祭りなどを題材にした「長和カルタ」を100枚作り、町内の小学校や保育園などに配った。子どもたちに、かるた遊びを通して郷土について理解を深め、愛着を持ってほしいとの

願いを込めている。

同大は、長和町で2008年度から学生による山村地域活性化を目的にした「山村再生プロジェクト」を始めた。これまでに、耕作放棄地で農産物を栽培したり、地元の祭りに参加したりしてきた。

かるた作りは、実習中の学生が小学生と触れ合った際、子どもたちが意外と地元の良さを知らないと感じたことがきっかけだ。地域の魅力を学生たちの視点で取り上げた。

「新しい 長和の特産 タツタソそば」は黄色いそばを描いた。「動かない 山車が特徴 おたや祭り」は、古町豊受大神宮の例祭「おたや祭り」で地元住民が奉納する固定型の山車をテーマにした。

絵札は全て、学生の手描き。現地に赴いたり、写真を参考にしながら苦心して描いたという。読み札の裏には、それ

学生による手描きのイラストを印刷した絵札が目を引く「長和カルタ」

ぞれの題材についての解説も付けた。発案してから山村再生プロジェクトに携わる学生は交代したが、かるた作りを引き継ぎ、4年ほどかけてこ

のほど完成させた。学生を指導した長和町出身の立岩寿一教授(63)は「学生は試行錯誤しながら、ゼロから物を作り上げるプロセスを

学んだ。長和町の子もたちが地元の誇りを育むきっかけになるといい」と期待している。

信濃毎日新聞 1月20日掲載

許可 NO. 1730101